

2019

助成団体報告集

コープ 2018年北海道地震 ボランティア 応援基金

NPOや、協同組合、学校法人などの非営利法人やボランティア団体による平成30年北海道胆振(いぶり)東部地震災害に対する支援活動や、被災された地域の生活支援・まちづくり活動(防災への取り組みを含む)に対して助成を行います。

北海道 NPO ファンド

コープ2018年北海道地震ボランティア応援基金2019年助成団体一覧
 A 50万円～100万円

NO	団体名	事業名	所在地	助成額
1	あびらや・らび〜あ	HONEBONEコンサート及びオクラホマライブ	安平町	37.5万円
2	いのちをつなぐチャリティマルシェ	「あびら☆うたごほん」及び「あびら☆援農」	南幌町	71.3万円
3	NPO法人はやきた 子どもの遊び場づくりネットワーク	震災で崩れた「北進の森」植林による復旧作業	安平町	70.9万円
4	カフェデモンクえりも	平成30年度北海道胆振東部地震災害支援活動	浦河町	37.5万円
5	NPO法人日本ノル ディックウォーキング 学校	平成30年度北海道胆振東部地震健康生活支援 事業	伊達市	53.6万円
6	NPO法人いぶり自然 学校	馬と親子による地滑り山林の整備と整備後の搬 出材・フィールドの利活用推進事業	苫小牧市	75万円
7	追分イーグルス	室内野球練習場(ハウス)設営	安平町	37.5万円
8	NPO法人 薔薇香る 癒しのまち岩見沢	コミュニティカフェぼらカフェ運営事業	岩見沢市	61.5万円

B 10万円まで

NO	団体名	事業名	所在地	助成額
1	NPO法人アグリコミュ ニティ千歳	大地震の復興にむけての原風景再興と新ビジネス 創出	千歳市	10万円
2	支え合い共に生きる 会	「みんなの茶店」修繕事業	むかわ町	10万円
3	オレンジたすきで繋 ぐ「ippo」	仮設住宅に花を	厚真町	10万円
4	一般社団北海道 ブックシェアリング	むかわ町穂別図書館再開支援事業	江別市	7万円
5	そばで加わるネット ワーク	夢を叶える蕎麦会 ※	倶知安町	10万円

※夢を叶える蕎麦会は20年度実施に変更となりました。

計 491.8万円

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただきますのでご了承ください。

団体名	・NPO法人 ・一般社団法人 ・任意団体 (※いずれかを○で囲んでください) あびらや・らび～あ 代表 小山優子		
団体 URL		電話	090-1643-5122
住 所	勇払郡安平町早来大町 24-2		
助成額	375,000円	助成時期	2019年 8月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	1. HONE BONE (ホネボーン) の音楽ライブの開催 2019年9月21日(土) 追分公民館 来客数 200名 圧倒的な歌唱力のエミリーさんの唄声に魅了された。事前に安平町民にアンケートを実施した。そのアンケートをもとに新曲「当たり前」を披露していただいた。 2. オクラホマの河野真也氏講演会 10月13日(日) はやきたこども園 来客 50名 講題” 子育ていろいろあるよね～イラっときたら笑えるチャンス” 相方の藤尾さんの失敗談で笑い、子育ての話にほろりとした。		
助成を受けて (活動内容について 100～200 字程度でお書きください)	胆振東部地震から一年が過ぎました。この一年、各方面からたくさんのご支援をいただきました。町民ひとりひとりも復興に向けて頑張っていますので、その頑張る人たちを応援したいと思い、町民が元気になるようなイベントを企画しました。 北海道 NPO ファンドさんの助成金により目的を達成することができました。ありがとうございました。		
写真の説明文	1. ホネボーンライブ終了後 2. 河野氏講演会終了後		

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	375,000	
2 その他の助成金	0	
3 団体支出	69,208	
4		
収 入 合 計	444,208	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
出演料	215,000	ホネボーン 50,000、オクラホマ 165,000
振込手数料	880	
通信費	951	
会場費	10,500	ホネボーン会場
ポスター作成代	7,506	
チラシ印刷代	10,738	
チラシ新聞折り込み代	8,942	
機材台	10,000	ホネボーン音響機材代
旅費	130,600	ホネボーン 120,600 オクラホマ 10,000
お弁当代	41,581	ホネボーン 34,872 オクラホマ 6,709
土産代	5,210	ホネボーン 1,560 オクラホマ 3,650
託児以来代	2,300	オクラホマ
支 出 合 計	444,208	

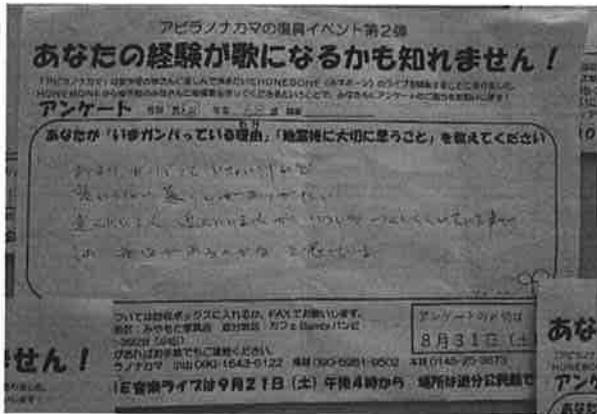
※ 領収書の添付は必要ありません。

あびらや・らび～あ			
所在地	北海道勇払郡安平町早来大町 24-2		
団体種別	任意団体	助成額	375,000 円（申請 50 万円）
視察日	2019 年 9 月 21 日	視察場所	安平町追分公民館
取材対応	小山さま、木林さま		

ヒアリング事項等	
企画の経緯	
<p>胆振東部地震では発生直後から安平町にも多くの支援が寄せられた。支援を受けながら、町民同士も隣近所でお互いに譲り合い、助け合い、声をかけ合いながら厳しい状況を一日一日乗り越えてきた。地震をきっかけに緊急時に助け合うことができる地域住民の関係性の素晴らしさや重要性を再認識した。</p> <p>地震から半年が経過した頃、支援に頼るだけでなく地域住民自らが立ち上がり、地元の活力を取り戻すきっかけになるような行動をおこしたいと思うようになった。</p> <p>今回は当助成金でイベントを 2 つ企画した。企画に関わる地域の有志と新たに「アビラノナカマ」という実行委員会を立ち上げ、企画・運営を進めた。</p> <p>あびらや・らび～あでは 10 年ほど前からバザーなどを通じてチャリティイベントを行ってきた。音楽ライブの開催は初めての試みで、全国的に活動する人気デュオ HONEBONE の出演が決まった。HONEBONE はイベント開催の主旨に賛同し、町民からのアンケートをもとに震災の体験を歌にした。また、イベント宣伝動画に自らも出演し参加を呼び掛けた。地元の有志の協力で音楽機材を確保し、音響環境を整えることができた。場内アナウンスには地元の高校生が自ら手を挙げ担当することとなった。</p>	
事業の進捗状況	
<p>申請書に記載された計画に沿って遂行されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 21 日 HONEBONE LIVE（追分公民館） ・ 10 月 13 日 オクラホマ 河野真也氏 講演会（はやきた子ども園） <p>上記イベント開催をもって当助成金の申請事業としては終了。</p>	
所見	
<p>ライブが始まると沢山の町民がホールに集まった。HONEBONE のトークや演出に、会場からは自然に笑いや手拍子がおきた。特に震災を体験した町民の気持ちを歌にした「当たり前」という歌ではホールは感慨深い雰囲気にも包まれた。</p> <p>地震から 1 年が経過し、外からの支援により活力を取り戻した住民たちが核となり、被災地域の復興を担っていく意欲や活力が感じられた。音楽ライブ、講演会は継続的な日常生活支援ではないが、復興のための町民による、町民のための集いとして評価されるべきである。</p>	

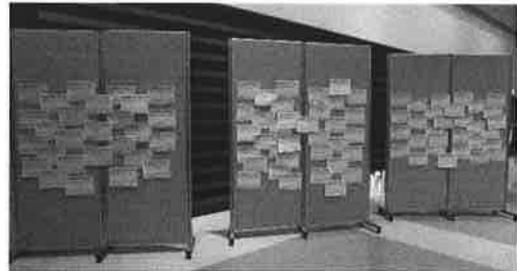


追分公民館の様子 開演時には満席となった



歌づくりのもとになったアンケート

「変わらない暮らしがありがたい。遠くにいる人、
近くににいる人がいろいろつくしてくれている事で
この毎日があるのかなと思っている」
他、沢山の町民の思いが寄せられた。



町民が作ったキャンドル ひとつひとつに「がんばれ!あびら」などメッセージが書かれている



アピラノナカマ復興イベント第2弾
HONBONE LIVE IN ABIRA
(ホネボーン ライヴ イン あびら)
開催要項

①事業の趣旨・目的

胆振東部地震で甚大な被害を受けた安平町において、町民に元気を出して頂けるための活動を、町民自身の力で実行したいと考え企画したものです。

②事業の内容

NHK BS プレミアム放送において冠番組を持つ2人組のグループ HONBONE(ホネボーン)によるライブを行う。また、事前に町民にアンケートを行い、寄せられた言葉から安平町の応援歌を作成してもらう。この事業を行うことで心の癒しや前に進むきっかけに繋げたい。

③主催 アピラノナカマ実行委員会

④公演日程

・令和1年 9月21日
・開場 15:30 開演 16:00

⑤場所 追分公民館

⑥参加費 無料

⑦参加対象 町民及び安平町に関心を寄せる町外の方々

⑧予算

・2018年コープ震災支援交付金
・「アピラノナカマ」Tシャツ販売による利益

⑨問合せ先

アピラノナカマ実行委員会
小山優子 090-1643-5122
木林美恵子 0145-25-3573

アピラノナカマ復興イベント第3弾
子育て応援講演会
オクラホマ河野氏による講演LIVE
「子育てって、いろいろあるよね(仮題)」
開催要項

①事業の趣旨・目的

胆振東部地震で甚大な被害を受けた安平町において、町民に元気を出して頂けるための活動を、町民自身の力で実行したいと考え企画したものです。

②事業の内容

震災以来、高齢者をはじめ町民は被害の大きさにかわらぬ不安を抱えており、中でも子育て世代は、育児と仕事に追われながら日々を過ごしています。その世代に対して、少しでも笑いが起き、心が癒されるような場所を提供したいと考え、この度の計画に至りました。講師としてお願いした方は、テレビの情報番組などで活躍しているお笑いグループオクラホマ河野真也氏。氏は、震災発災以降、何度も来町しボランティア活動等を行って下さいました。今回の講師依頼においても、快く引き受けて下さいました。子育て世代向けということで、託児も行うことから、会場には早来児童館ホールをお借りし、近い距離でお話を聞いて頂く計画です。この事業を行うことで若い世代にも、今より前に進むきっかけにつなげたい。

③主催 アピラノナカマ実行委員会

④公演日程

・令和1年 10月13日
・開場 13:00 開演 13:30

⑤場所 早来児童館ホール

⑥参加費 無料

⑦参加対象 町民及び子育て世代

⑧予算

・2018年コープ震災支援交付金
・「アピラノナカマ」Tシャツ販売による利益

⑨問合せ先

アピラノナカマ実行委員会
小山優子 090-1643-5122
木林美恵子 0145-25-3573

アピラノナカマの復興イベント第2弾！
ホネボーン
HONBONE LIVE in ABIRA

日時：9月21日(土)午後3時30分開場 午後4時開演
会場：追分公民館(安平町追分緑が丘200-2)
入場料：無料



主催：アピラノナカマ 問い合わせ先 [小山]090-1643-5122
(あびらや・らび〜あ) [木林]0145-25-3573
後援：安平町教育委員会

この公演は、2018年コープ震災支援交付金と「アピラノナカマ」のTシャツ販売の収益金により開催します。

同時開催 アピラノナカママルシェ
[開場時間：午後3時～コンサート開始まで コンサート終了後約1時間]
HONBONEのCD販売、ミニアルバム、アピラノナカマTシャツ販売

子育て、いろいろあるよね～
**イラっとしたら、
笑えるチャンス！**

アピラノナカマの復興イベント第3弾！

この講演会は、2018年コープ震災支援交付金と「アピラノナカマ」のTシャツ販売の売上により開催します。

お笑いコンビ「オクラホマ」
大阪出身。北海道大学在学中にコンビ結成。テレビ・ラジオのレギュラー番組や演劇・講演会出演など、個々の活動も積極的に行っている。

**オクラホマ
河野真也氏 講演会**

日時：10月13日(日)
午後1時開場 1時30分開演
会場：早来児童館ホール
(はやきた子ども園)

入場料：無料

※託児あります。託児を希望される方は、下記申込書に記入しファックスでご連絡ください。
主催：アピラノナカマ 問い合わせ先：小山☎090-1643-5122
(あびらや・らび〜あ) 木林☎0145-25-3573
後援：安平町教育委員会
協力：学校法人 リズム学園 はやきた子ども園

【託児の申込書】
保護者の方のお名前()))
連絡先：住所()))
電話番号()))
お子様のお名前・年齢() () 歳
() () 歳
申し込み締め切り：10月5日(土) 申し込みFax 0145-25-3573(木林)

2019年9月21日（土）HONE BONE ライブ終了後



2019年10月13日（日）オクラホマ河野真也氏講演会



講演会終了後



コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	・NPO法人 ・一般社団法人 ・任意団体 （※いずれかを○で囲んでください） いのちをつなぐチャリティマルシェ		
団体 URL	https://www.facebook.com/charity.marche/	電話	011-839-2479
住 所	北海道空知郡南幌町南 19 線西 20 番地		
助成額	713000 円	助成時期	2019 年 5 月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	1) 「あびら☆うたごはん」2019年5月より2020年4月の間、安平町早来仮設住宅談話室において、仮設住宅入居者の方々を対象に、月に一回～二回の昼食会を計15回開催。その際、歌や楽器演奏などの音楽を楽しむ時間を共有。助成金の使途は食材費、台所用品などの消耗品費、交通費。対象者のべ175名、活動参加者のべ127名 2) 「あびら☆援農活動」2019年4月より2020年4月の間、安平町守田地区において、畑作の農家さんを対象に、必要に応じ計10回の農作業の支援活動を行った。助成金の使途は交通費、飲料費。対象者のべ36名、活動参加者のべ24名。 3) 2019年4月より2020年4月の間、通年で事務局を運営。上記2つの活動の参加者募集や送迎、連絡調整、必要物品の準備、チラシなどの作成と配布、会議への参加、対象者への聞き取り調査など。助成金の使途は事務用品費、交通費など。 ※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。		
助成を受けて（活動内容について100～200字程度でお書きください）	安平町でのボランティア活動の参加者は札幌など遠隔地に住む人や学生が多いため、交通費の心配なく参加してもらえたことで活動が持続でき、仮設住宅の入居者の方々や農家さんにも喜んでいただいた。「あびら☆うたごはん」では仮設住宅の入居者の方がギターを弾いたり、次回の歌やメニューをリクエストしたりするなど、楽しみにしてくれていた。今後も同様の活動を地道に継続していきたい。		
写真の説明文	第10回「あびら☆うたごはん」2019/10/15、歌のあとのタコスパーティ		

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	713000	
2 その他の助成金		寄付金（カンパ）は本間康子（琴似工業高校） より10000円、ギャラリーteto2（由仁 町）より6570円
3 団体支出		
4 寄付金	16570	
収 入 合 計	729570	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
1. あびら☆うたごはん （・食材等） （・消耗品等） （・交通費）	418590 (211695) (20390) (186505)	1. あびら☆うたごはん 2019年5月～2020年4月、 計15回活動
2. あびら☆援農活動 （・消耗品等） （・交通費）	50357 (46076) (4281)	2. あびら☆援農活動 2019年4月～2020年4月、 計10回活動
3. 事務局 （・事務運営費） （・消耗品等）	244809 (240000) (4809)	3. 事務局 通年。連絡調整や会議への参加、 チラシ作成・配布等
4. 次年度事業へ繰り越 し	15814	4. 次年度も同様の事業継続予定
支 出 合 計	729570	

※ 領収書の添付は必要ありません。

いのちをつなぐチャリティマルシェ

所在地	北海道空知郡南幌町南 19 線西 20 番地鷲頭様方		
団体種別	任意団体	助成額	713,000 円 (申請 95 万円)
視察日	2019 年 10 月 15 日	視察場所	安平町仮設住宅談話室
取材対応	鷲頭さま		

ヒアリング事項等

企画の経緯

北海道胆振東部地震の発生後、同会は避難所にて炊き出しボランティアを行ってきた。避難所での活動終了のあと、現地で引き続き被災者の支援を行うため仮設住宅での支援活動を企画した。仮設住宅の入居者は、環境の変化により心身ともに疲弊し、特に高齢者や独居世帯では閉じこもりがちになる傾向があった。

そこで、2019 年 5 月から安平町の仮設住宅で「あびら☆うたごはん」と題した食事提供と音楽演奏を行うこととした。17 世帯(4 月現在)のうち 1 回の食事会の参加者は 5 名~10 名程。食事は普段はなかなか家庭で作らないものや、大人数で楽しめるようなメニューを中心に用意している。2020 年 10 月の仮設入居期限に向けて、参加者は減っていく傾向にあるが、寂しくなった時こそ続けたい。

「援農活動」については地割れにより農業用給水設備のパイプが破断した畑作農家の援農作業を行っている。市民レベルで手伝うことができる植え付け、収穫、ビニルハウス設営作業の手伝いを行っている。土日には北大の大学生もボランティアで参加している。

事業の進捗状況

「あびら☆うたごはん」はこれまでに仮設住宅入居者を対象に 9 回開催してきた(視察日現在)。参加者のなかには「毎月この食事会を心待ちにしています。」と語る避難者もいるとのこと。今後も月 1 回のペースで続けていく予定。仮設住宅の入居期限のあとは、談話室のような食事提供を行える集う場を確保できる見通しが立っていないため未定である。

「あびら☆援農作業」については現在支援している畑作農家の被害が大きく、今後 3 年間ほどを要するため、今年度以降も可能な限り支援を継続して行く予定である。

所見

視察は安平町仮設住宅談話室での 10 回目の昼食会の際に行った。仮設住宅から 6 名(5 世帯)の参加があった。昼食の前にはギターと歌で音楽の時間があり、歌詞が配られ歌謡曲や童謡を参加者も自由に口ずさんでいた。食事はタコスなどのメキシコ料理が提供された。昼食会の最後には次回リクエストしたい料理を募り、参加者の希望を反映して開催している様子がかがえた。現在は 10 名程度のスタッフやボランティアがその都度、札幌、岩見沢、南幌から駆け付けている。談話室のスペースそのものが狭いため、大掛かりな設備や備品を準備することはできないが、仮設入居者がアットホームな環境でくつろげる場を提供している。

将来的には地元の団体や住民が核となり、活動内容をより良いものに変えながら引き継いでいくことが望まれる。



安平町北進の仮設住宅

隣接した場所に小さな談話室がある



あびら☆うたごほんの様子

「サランベ」「みんな夢の中」「真夜中のギター」
「荒城の月」「白い花の咲く頃」「紅葉(もみじ)」
の全6曲を合唱した。

昼食はトルティーヤが焼かれ、
それに思い思いの具材を包んで食べるタコス。

普段食べない料理に参加者も嬉しそうな様子。

タコスの他、かぼちゃのポタージュ、
豆のサラダ、デザートなど数多くの料理が並んだ。



第10回

あびら☆うたごはん

♪とき 10月15日(火) 11:30~13:30

♪ところ 安平町早来仮設談話室

♪うた 金子バンド(金子けんじさん、豊川容子、モノノケユースケ)
アイヌの歌や「サビタの花」など美しい昭和歌謡、「涙そうそう」など
おなじみの歌を楽しみましょう。



♪ごはん

タコスパーティ♡

メキシコ風のお料理です。

薄く焼いた生地にもろいろのせて巻いて食べます。

野菜もたっぷり、栄養満点です！

お楽しみに～。

みなさまどうぞいらしてくださいね。

お手伝いいただける方は11時ころ～お願いします！

主催：いのちをつなぐチャリティーマルシェ

安平班 鷺頭環(わしずたまき)

お問い合わせ：090-9089-5984

この活動はコープ2018年北海道地震ボランティア応援基金の助成を受けています。

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただきますのでご了承ください。

団体名	・ NPO法人 ・一般社団法人 ・任意団体 （※いずれかを○で囲んでください） はやきた子どもの遊び場づくりネットワーク		
団体 URL		電話	0145-22-3510
住 所	北海道勇払郡安平町早来大町156-1		
助成額	709,000 円	助成時期	2019~2020 年 5~3月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	胆振東部地震によって、管理運営している森が大きく崩壊した。大きく3箇所あった中、その1つを抽出し、その地を植林することにした。目的は、崩れた森を再生するにあたって、「人間の力」を取り入れることで、森の再生と地震を受けた人々が共に元気になっていきたい、そんな趣旨を持って着手。 植林という無知の中、各方面の専門家の知恵と力を拝借しながらプロジェクトとして進めることになり、そのプロジェクトに関わる諸費用を今回の助成金で充てさせていただいた。また、作業にかかる備品購入にも使用させていただきました。		
助成を受けて（活動内容について 100 ~ 200 字程度でお書きください）	当事業を実施するにあたって、まず、北海道大学農学部森林生態学研究室の監修のもと、植林を通しての森づくりを進めることができた。また、震災で出たレガシーなどをフル活用し、土留め等、専門的な力を持っている NPO 法人いぶり自然学校の多大なる協力を得て作業の土壌を作っていたいただいた。その後、土留めづくりの人工に関しては、作業量はかなりあったものの、当時の災害ボランティアで協力してくれた方々が手伝ってくれ達成。今後春先に植える苗木も準備でき、春先に植林・鹿柵を設置できる状態となった。		
写真の説明文	森のレガシーを使って、土留めを作った様子		

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	709,000	
2 その他の助成金		
3 団体支出	3,508	
4		
収 入 合 計	712,588	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
備品	104,244	ヘルメット・チャップス・森林香
作業費	172,095	西埜馬搬
車両関係費	500	打ち合わせ駐車場代
保険代	10,710	作業傷害保険（もりづくりフォーラム）
備品	95,259	土留め作業にかかった備品（おの・くわ等）
消耗品費	22,275	SDカード・消耗品
鹿柵・センサーカメラ	307,505	春先に張る鹿柵
支 出 合 計	712,588	

※ 領収書の添付は必要ありません。

はやきた子どもの遊び場づくりネットワーク			
所在地	勇払郡安平町早来大町 156-1		
団体種別	NPO 法人	助成額	709,000 円 (申請 94.5 万円)
視察日	2019 年 10 月 1 日	視察場所	はやきた子ども園 北進の森
取材対応	小瀧さま、奥平さま		

ヒアリング事項等	
企画の経緯	
<p>「北進の森」は認定こども園はやきた子ども園の近隣に位置し、当園の運営母体である学校法人リズム学園の所有する 13.6 ヘクタールの森林である。2018 年 4 月よりこの森林を整備し、「子どもの遊び場」づくりに着手した。「子どもの遊び場」は予め設えた設備や遊びのプランの選択肢に縛られることなく、自分たちのアイデアとスタイルで自由に遊ぶことができる空間である。子どもたちが遊ぶ上で安全が確保されるよう、森の整備に取りかかった矢先、9 月に地震が起こった。森のあちこちで土砂崩れや地割れがおき、多くの木々が倒れる被害が出た。そこで、もともと自生していたどんぐりやミズナラを植林し、遊び場の予定地である森の復旧事業を行うこととした。</p> <p>また、子供たちは地震、相次ぐ余震で不安な状態に置かれた。子どもたちも安全な場所で森林の復旧活動に携わることを通じ、教育現場として子どもたちの心のケアをすることも狙いである。</p>	
事業の進捗状況	
<p>事業は計画に沿って遂行されている。実際に植林を行うまでには、まず土砂や倒木を取り除き、土留めをする必要がある。植林現場は重機が入ることができない場所のため、馬を使って倒木を外に運び出している。馬が初めて森に入った時には 100 名ほどが集まり賑わいを見せた。今後のスケジュールとしては、植林を行い、動物除けの対策を施して当該事業は終了となる。子どもたちには木の皮をはがして土留めの杭づくりを手伝わせたり、植林する苗木となるどんぐりポッド作りを体験させたりしている。馬とのふれあい、復旧作業の手伝いを通して、子供たちも段々と落ち着きを取り戻しているとのこと。</p>	
所見	
<p>申請事業が行われている植林現場は子どもたちの現在の遊び場からは大変険しい山道を歩いた先にある。土日に開催するプレーパークには地元住民の参加は少なく、現段階では活動の受益者が限定的である。今後多くの費用と時間を要するものの、当団体は息の長い活動で今後被災地復興支援という意味合いを強め、コミュニティ再生への貢献を目指している。</p> <p>北海道の場合雪が降る冬は復興支援活動が全体的に鈍りを見せるが、当事業は馬を使うことで冬季も活動が可能である。本件の活動には本州、北海道内の被災町村以外から移り住み、取り組みを行っている現役世代がおり、震災により人口流失した町にとって、彼らの存在は非常に貴重なものと考えられる。</p>	



植林現場
倒木を運び出し、山肌を整
備し植林を行う



← どんぐりポット

製作には子どもたちも参加

土留め用杭 →



子どもの遊び場の様子

プラスチックなどの人工物はなく、森の植物、動物、
手作り遊具、で自由な遊びを楽しむ場をつくっている



コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	・NPO法人 ・一般社団法人 ・ 任意団体 （※いずれかを○で囲んでください） カフェデモンクえりも		
団体 URL		電話	0146-22-78700
住 所	北海道浦河郡浦河町東町ちのみ 1 丁目 1 番 1 号医療法人薪水浦河ひがし町診療所内		
助成額	375,000 円	助成時期	2019 年 5 月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ・厚真町豊川地区・福祉センターでのサロン運営費用。ボランティア派遣費用。 ・本郷地区仮設住宅での運動教室への看護師等派遣費用。 ・「カフェデモンク in 厚真一年の集い」イベント費用。 ・「浦河ひがし町診療所稲刈り厚真町民招待ツアーイベント」費用。 ・「吉野地区供養会」のボランティア派遣費用。 <p>※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。</p>		
助成を受けて（活動内容について 100 ～ 200 字程度でお書きください）	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川地区サロン、福祉センターサロンはそれぞれ 1/月の頻度で行った。精神保健福祉士、看護師、傾聴ボランティア、宗教者らが参加している。 ・本郷地区仮設住宅での運動教室では主に看護師のボランティア派遣を行い、健康チェックや心のケアに取り組み、食事会も 1 度開催した。 ・イベントとしては、吉野地区での宗教家による供養会、厚真町災害ボランティアセンターにて 1 年の集い、町民を浦河町に招いての稲刈りイベントを実施した。 		
写真の説明文	供養会（7/25）と豊川地区サロンの様子。		

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	1 375,000	
2 その他の助成金		
3 団体支出	3 215,111	
4		
収 入 合 計	590,111	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
ボランティア交通費	270,000	
ボランティア食事代	161,430	
サロン飲食費	22,732	
イベント活動費	126,648	イベント：7/25 供養会 9/7 一年の集
その他	9,301	9/21 稲刈り 1/28 運動教室食事会 その他：チラシ作成費用
支 出 合 計	590,111	

※ 領収書の添付は必要ありません。



豊川サロシ

with Cafe de Monk

カフェデモンク 厚真

みんなの喫茶店

「カフェデモンク」は誰でも参加できるおしゃべりカフェです。
みんなでお茶とお菓子とおしゃべりを楽します。
参加無料です。ぜひお越しください!

場所 厚真町 豊川生活会館

厚真町豊川339-5

時間 10:00～12:00

開催予定(～2020年3月)

2019年

10月2日(水)

11月6日(水)

12月5日(木)

2020年

1月10日(金)

2月3日(月)

3月3日(火)

みんなでお茶会!

無料ですよ

「モンク」とは英語で「お坊さん」です
お坊さんも一緒に参加します

カフェデモンクとは?

生活や将来に不安な気持ちを抱えている方、
病気や障害を抱えている方やその家族、
ボランティアに興味を持っている方など
誰もが参加できるおしゃべりカフェです。

お坊さん、看護師さん、保健師さんなども
参加していますので、悩み相談もできます。
お気軽にお立ち寄りください。

お問い合わせ

厚真町社会福祉協議会(担当:山野下) 0145-26-7501

浦河ひがし町診療所(担当:高田) 0146-22-7800

共催 厚真市民協力者 カフェデモンクえりも

厚真町豊川地区の交流サロンで、住民と談笑する田中さん(左端)と柳さん(右端)＝1日



被災者がくれた勇気

心患う男性2人 傾聴ボランティア

【厚真、浦河】心の病を抱える日高管内浦河町の男性2人が、胆振東部地震で被災した胆振管内厚真町に通い、被災した高齢者らと交流を続けている。境遇は違っても、同じように孤独や不安を抱える被災者に寄り添い、自らも生きることへの前向きさを取り戻しつつある。

(中橋邦仁、写真も)

胆振東部地震から1年

今日1日、のどかな農村地帯 どの仕事のかたわら、2人もスにある厚真町豊川地区の豊川生 タッフとして参加してきた。厚活会館。「このトマト、おいし 真では地震直後の昨年9月からいすね」「浦河も今年は暑い 始まり、副院長の高田大志さん 浦河から訪れた 田中さん(44)は、こ (40)が2人を誘った。 傾聴ボランティアの田中孝治さ ン(48)と柳二茂さん(44)は、こ 「被災地で活動するなんて夢に の地区で7回目の交流サロン も思わなかった」と振り返る。 「カフェモンクイン厚真」に 10年ほど前に母親を亡くしたシ 集まった高齢者ら約10人に穏や ョックで家に引きこもっていた かな表情で語りかけた。 時期もある。内向的だったが、 統合失調症を抱える2人は、 地震直後は「大切な人を亡くし サロンを主催する精神科クリニ た人のため役に立てることがあ ンク・浦河ひがし町診療所に通 るはず」と、土砂崩れにあった 院している。診療所は2015 住宅での震害も避難所の 年から日高管内えりも町で、精 炊き出しにも積極的に参加し 神障害者や不登校の子どもの交 した。 流サロン「カフェモンクえり 札幌で介護士を務めていた 柳さんは20歳を過ぎたころか

「必要とされている」実感

ら、幻聴に見舞われ、30歳で退 職を余儀なくされた。厚真に通 い始めた直後、心の病で引きこ もっていた地元の中年男性がサ ロンを訪れ、「体調が悪く、被災した家の片付けを進められな い」と打ち明けてくれた。「自 分が必要とされていると感じら れた。今までの苦労は無駄じゃ なかった」と柳さん。最近では、 苦手だった身だしなみへの気遣 いもできるようになった。 精神障害者が、被災地の傾聴 ボランティアとして活動する事 例は全国的に珍しいといひ、高 田副院長は「被災者との交流を 通じ、自分の存在意義を実感す ることが心の回復につながっ ている」と語る。 厚真では「地域になくしてはな らない存在」と歓迎されている。 厚真町豊川地区では地震前から 家に閉じこもりがちな高齢者が 多かったというが、月1回のサ ロンには毎回10人ほどが足を運 ぶ。同地区民生委員の阿部清一 さん(70)は「一歩踏み出すこと の大切さを、患者さんたちがわ れわれに教えてくれたらいい」と 強調している。

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	<input checked="" type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 <input type="checkbox"/> 任意団体 (※いずれかを○で囲んでください) 日本ノルディックウォーキング学校		
団体 URL	http://jnws.sakura.ne.jp/	電話	0142-68-6106
住所	北海道伊達市大滝区優徳町64-10		
助成額	536,000円	助成時期	2019年6月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ・講習を行う、各仮設住宅までの旅費（交通費などの費用弁償） ・講師への指導謝礼 ・講習会開催に伴う事務消耗品など ・講習会開催に告知などポスティング用チラシ印刷、コピー機使用料分担金など ・ポスティング用チラシなど、各仮設住宅など関係者への郵送料、葉書など ・受講者へポールストレッチングへの手引きなどパンフレット配布資料代 ・臨時事務員 賃金 ※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。		
助成を受けて (活動内容について 100 ~ 200 字程度でお書きください)	東日本大震災における支援活動で、学んだ実績・経験を次の震災のために伝承する活動として取り組んだ。また、突然起きる災害後の避難所で起きる健康被害特に生命や人権を脅かす、「エコノミークラス症候群の解消」、「ひとり暮らしや知らない人々との共同生活からくる、不安、孤立化」などストレスの軽減を図るための運動としての取組。 狭い仮設住宅で暮らすことによる運動不足の解消、仮設住宅内でのコミュニティの形成、ひとり暮らしの孤立化の予防。 行政、仮設住宅自治会などと支援活動実施のための、仕組み作りとその検証 講習会終了後の、地元での指導者養成およびパンフレットなどから、自らが自立して運動する習慣化への導き。		
写真の説明文	1) むかわ町仮設住宅～別紙 2) 安平町仮設住宅～別紙		

収支決算報告書

収入の部

単位 円

科 目	金 額	備 考
1 北海道NPOファンド 助成金	536,000	助成金 536,000 北海道NPOファンド助成金 536,000円
2 団体支出	14,216	日本ノルディックウォーキング学校負担金 14,216円
収入合計	550,216	

支出の部

単位 円

科 目	金 額	備 考
旅 費	165,600	旅費・費用弁償 165,600 厚真町 1日 延 1人 3,000円 むかわ町 8日 延 36人 130,600円 安平町関係 6日 延 13人 32,000円
指導者謝金	162,500	指導者謝金 162,500 むかわ町関係 8日 延 45回=130,500円 安平町関係 6日 延 20回=32,000円
事務消耗品	31,938	事務消耗品 31,938 コピー用紙 8,760円 先端ゴム 9,680円 のり 1,072円 USBメモリー 2,433円 クリアーホルダー 968円 ファイル 1,956円 上質紙 962円 テープ 2,694円 電池 886円 バインダー 756円 名札 1,771円
使用料	90,878	使用料 90,878 コピー機リース料分担金(8ヶ月間) 65,318円 コピー機使用料(モノクロ・カラー) 25,560円
役務費	13,900	役務費 13,900 はがき 5,270円 レターパック 8,620円 切って 10円
資料代	36,000	資料代 36,000 ポールストレッチング 60部×300円=18,000円 毎日できる10種類のポールストレッチング 60部×300円=18,000円
臨時事務職員 賃金 交通費	49,400	臨時事務職員 賃金 交通費 49,400 臨時事務員 5日 8,280=41,400円 // 1日 8,000=8,000円
支出合計	550,216	

※ 領収書の添付は必要ありません。

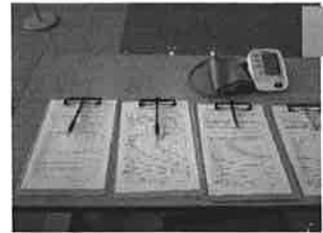
令和2年3月6日

上記監査の結果相違ないことを認めます。

NPO法人 日本ノルディックウォーキング学校 監事 丹羽裕之  監事  印 
 原本謄写 NPO法人日本ノルディックウォーキング学校 理事長 藤田隆  2022年3月10日

日本ノルディックウォーキング学校			
所在地	伊達市大滝区優徳町 64-10		
団体種別	NPO	助成額	536,000 円 (申請額 71,4 万円)
視察日	10 月 29 日	視察場所	穂別町公民館 2 階 多目的ホール
取材対応	藤田さま、二瓶さま、高橋さま		

ヒアリング事項等
企画の経緯
<p>NPO 法人日本ノルディックウォーキング学校は東日本大震災の仮設住宅にてエコノミークラス症候群や運動不足解消のため 8 年間活動を継続してきた。北海道胆振東部地震では発災から 1 週間後に 10 日間、避難所となっていた厚真町福祉センター、スポーツセンター、厚南会館、厚真中学校、上厚真小学校厚真町にて支援にあたった。避難所での活動は主にエコノミークラス症候群の予防が目的であるが、今回企画した申請事業は避難所から戻った住民や、仮設住宅に入居している住民も対象としている。健康づくりだけでなく、外で歩くということをきっかけとして外出し、ご近所とのコミュニケーションや、住民同士の見守り活動、仲間づくりの促進も当事業の目的のひとつである。各自が自主的なボランティア活動ではあるが、活動しやすい体制を整え、より良い質の高い活動として次の災害支援活動につないでいくのが目標。</p>
事業の進捗状況
<p>むかわ町では穂別地区、むかわ地区の 2 か所で教室を開催した。それぞれ毎回 10 名程度の参加があった。当初計画ではむかわ町、厚真町、安平町でそれぞれ 6 回の開催を予定していたが、会場を提供する役場との調整が難航し開催までに時間を要した。町との粘り強い交渉と多方面からの協力を得られ、むかわ町、安平町では実施に至った。厚真町とは取材日現在調整中であるが、今後も根気強く働きかけを行っていく予定とのこと。</p> <p>むかわ町の教室では苫小牧からボランティアで北海道ノルディックウォーキング赤十字奉仕団の 2 名がインストラクターとして指導にあっている。前半は屋内で準備運動としてポールを使ったストレッチを行う。ポールを支えにしながら椅子に腰かけたまま行うことができるため、転倒のリスクがある高齢者も実践できるのが特徴的だ。ストレッチの後は、ポールをついて歩く練習を行い、後半は実際に屋外に出てウォーキングを行う。最後に室内に戻ったあとストレッチを行って終了となる。できるだけ助成団体が自己完結できる形で計画はしているものの、会場を手配する行政とのスケジュール調整やマッチングが一番に苦労した点とのこと。</p>
所見
<p>視察日はむかわ町での 4 回目の教室開催であった。むかわ地区での午前中の教室には 7 名が参加。穂別地区の午後の教室には 3 名が参加した。ノルディックウォーキングにはノルディックウォーキング用のポールが必要なため、教室開催時はポールを一人ずつに貸し出して行う。ノルディックウォーキングが習慣化した参加者のなかには自前のマイポールを用意し持参している方も多し。むかわ町は町長自身もノルディックウォーキングの愛好家であり、以前から慣れ親しんでいる住民も多いとのこと。地元のラジオ体操の会が周知に協力し参加者の輪が徐々に広がっている。ノルディックウォーキングやポールを使ったストレッチは個人がそれぞれ自宅でも行うことができる運動である。ポールを支えに行うため、転倒等のリスクは低いものの、血圧測定やチェックシートでその日の参加者の体調の確認を行っている。日々の健康習慣として住民に浸透すれば地域の健康寿命を延ばす取り組みとなると考えられる。</p>



むかわ町で行われた教室の様子



道内各地からボランティアで多くの指導員が
被災地に駆けつけて指導にあっている。



北海道新聞

【厚真、安平、むかわ】伊達市のNPO法人「日本ノルディックウォーキング学校」のメンバー14人が、胆振東部地震で被害を受けた厚真、安平、むかわの3町で、仮設住宅の住民らに2本のポールを使った運動を指導するボランティアを行っている。理

事長の藤田隆明さん(68)は東日本大震災の被災地で同様のボランティアを行った経験があり、「被災者の健康維持をサポートしたい。住民が仮設住宅から退去するまで続けられれば」と力を込める。

(小宮実秋)

伊達のNPO 被災3町の仮設住宅で運動指導

歩き耳傾け 心身支える

藤田さんは元伊達市職員で、国際ノルディックウォーキング連盟公認のナショナルトレーナーの資格を持つ。東日本大震災では、生半月後に被災地の岩手県陸前高田市や大船渡市の避難所に訪



安立町の仮設住宅で暮らす住民にポールを使った歩き方を教える藤田隆明さん(左)

「東日本」の経験生かす ポール使い一緒に 相談も

消させようと思った。被災者が仮設住宅、退去を待てなかった後も、8年間活動も続けてきた。この経験が次の被災に生かそうと、狭い居住空間でもできるポールを使った運動法をまとめた冊子も作った。胆振東部地震では、発症1週間後に、苫小牧市や札幌市在住の日本ノルディックウォーキング学校の会員とともに厚真町を訪れ、避難所で生活する被災者に直接指導を掛け、外で一緒にポールを使って歩いたりした。時には被災者の生活の不安や悩みも聞いた。今年8月からはむかわ、安平両町の仮設住宅などで月2〜3回講習を行い、高齢者を中心に運動法を指導する。藤田さんは「住民が集まり会話をすることで心のリフレッシュにつながる」と話す。安平町の仮設住宅で暮らす小塚恵子さん(74)は「体を動かしながら会話するのが楽しい。外出するきっかけになる」と喜ぶ。藤田さんは後継者の育成にも力を入れており、「仮設住宅を退去後も、住民が健康を維持できるように、被災地で指導者を育てたい」と意気込んでいる。

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	<input checked="" type="radio"/> NPO法人 <input type="radio"/> 一般社団法人 <input type="radio"/> 任意団体 (※いずれかを○で囲んでください) <small>とくていひえいりかつどうほうじんいぶりしぜんがっこう</small> 特定非営利活動法人いぶり自然学校		
団体 URL	https://www.facebook.com/いぶり自然学校子ども のための災害支援東胆振 svc-330127821067739/	電話	0144-82-7860
住所	〒053-0047 苫小牧市泉町 1 丁目 5-6		
助成額	750,000 円	助成時期	2019 年 5 月～2020 年 3 月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	地震によって地滑りを起こしてしまった各地域の里山エリア（安平町北進の森奥）において、そのフィールドの整備を進めるために、特に胆振管内で古くから実施されてきた馬による整備（馬搬）を用いた整備を行った。合わせて、地滑りを起こした斜面における播種促進および天然更新を促進するために、地滑り斜面の基礎調査と倒木を活用した土留材の作成および設置を行った。また、その整備プロセスを多くの子ども、あるいは親子、あるいはボランティアツアーリストによる整備を進め、地滑りを起こした場所の再生する様子を観察するジオパーク手法を用いた森林再生につなげるための体制を構築すべく、関係者との会議やモデルプログラムを実施した。		
助成を受けて（活動内容について 100～200 字程度でお書きください）	当初、安平だけではなく厚真・むかわでの活動も計画していたが、予算の削減、私たちが到底対応し切れない範囲と規模のエリアとなってしまったこと、思った以上に安平のフィールド整備に時間がかかること、を勘案し、安平のみに絞った活動を展開することになった。その分、地域関係者や地元ボランティア、子どもたちの前に数多く出ることとなり、そのプロセスを共有できる場面を多く創出できたことは大きな成果であると言える。また、馬搬についても地元の若手スタッフがそのほとんどを担うこととなり、専門家の指導を受けながら、一定の成果を上げることができたことは、技能の向上と持続性が高めることにつながったと考えられる。		
写真の説明文	写真 1 ボランティアによる土留づくり 写真 2 馬搬専門家による理論研修 写真 3 馬搬専門家による林内研修 (OJT) 写真 4 子どもたちと一緒に搬出材の製材化を見学 写真 5 コンビフオーダーを使った倒木の搬出		

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	750,000	
2 その他の助成金	0	
3 団体支出		
4		
収 入 合 計	750,000	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
馬搬出道具レンタル料	200,000	(株)流山 馬具一式
作業馬運搬費用	100,000	(株)レヴォレーター 5回
作業馬メンテナンス料	100,000	NJF 体調維持資材 特殊資材 88,014円 梨木競走馬診療所(ワクチン) 11,000円 メンテナンス消耗品(コメリ) 986円
馬搬作業人材育成指導者謝金	60,000	(株)レトロフューチャー寄田氏 3回
整備のための調査費用	40,000	北の里山の会 孫田氏 2回
森林整備安全管理謝金	100,000	安全管理謝金 村上氏 10回 50,000円 安全管理謝金 市原氏 10回 50,000円
ボランティア調整謝金	100,000	NPO 法人 ezorock 5回
スタッフ移動用燃油代	22,500	モダ石油 2,877円 コスモ 2,982円 出光 4,366円 宇佐美 2,860円 ENEOS 4,540円 コスモ 4,875円
事業管理費	27,500	事業管理費一式
支 出 合 計	750,000	

※ 領収書の添付は必要ありません。

いぶり自然学校			
所在地	苫小牧市泉町 1-5-6		
団体種別	NPO	助成額	750,000 円（申請 100 万円）
視察日	10 月 21 日(月)	視察場所	安平町 はやきた子ども園北進の森
取材対応	上田さま		

ヒアリング事項等	
企画の経緯	
<p>北海道胆振東部地震では大規模な地滑りが起きた。これまで胆振管内で地域づくりや人材育成、森づくりボランティアのコーディネートやグリーンツーリズム推進などに携わってきた経緯があり、その面から地震の復旧・復興に貢献したいと考えた。具体的には地滑りや倒木が相次いだ森林内で、荒れた土地を整備し植林を行うことができるよう、倒木を馬で運び出す作業を行う。馬を利用するのは、重機が入れない山道でも器用に木材を運ぶことができ、伐採や舗装の必要がなく自然を壊すことなく作業を進められるからである。運び出した倒木はできるだけ森のインフラや、町内で循環活用できるよう腐食しないように保管する。</p> <p>また、被災した地域でエコツアーやプレーパークを展開し、外部から経済的支援を得られるよう新たな価値の創出も目指している。</p>	
事業の進捗状況	
<p>当初、早来子ども園の北進の森、厚真学校林、むかわ和泉地区での実施を予定していたが、助成金額の変更で今年は安平町早来子ども園北進の森のみでの活動にとどまった。</p> <p>北進の森の復旧事業、プレーパークの主催は、NPO 法人早来子どもの遊び場づくりネットワークである。当助成団体はこの活動をワーキングホースを使った技術提供で支えている。馬は団体の所在地である苫小牧で飼育・管理しており、馬搬作業やプレーパーク開催時に連れてくる。馬に触れ合えるプレーパークには、土日に地元の子供たちを中心に延べ 30 人ほどの参加があった。</p> <p>植林を目指す土砂崩れを起こした現場では、視察時現在で概ね 70%程度の事業が完了している。冬も圧雪路面を活用して作業は継続し、残っている倒木を全て運び出した段階で当助成事業は終了となる。</p>	
所見	
<p>「北進の森」は当基金の助成団体である NPO 法人はやきた子どもの遊び場づくりネットワークの活動場所でもあるため、この度の視察では NPO 法人いぶり自然学校の事業活動および助成金の使途について注視した。いぶり自然学校は地滑り現場で植林活動を目指すはやきた子どもの遊び場づくりネットワークを、倒木撤去のための技術面から支える関係にある。重機の操縦と同様にワーキングホースを扱うには調教の技術をもった人材が必要である。また、馬を苫小牧から運搬するコストや、人力でチェーンソーを使い倒木を搬出できるサイズに整える作業が必要である。助成金はこのような技術支援にかかる経費に活用されており、2つの助成団体の活動場所は重なったものの、それぞれの役割をもって適切に運用されていることを確認した。</p> <p>視察日の前日には「北進の森」に東京都国立市から親子でエコツアーに 15 名程が訪れていた。子どもは遊び場で遊び、親は地震で地滑りが起きた現場を見学し復旧作業に参加した。当法人は被災地域に被災地域外から積極的にヒトを呼び込み経済効果と賑わいをもたらすことに尽力している。また、震災後、馬搬作業に携わるため網走市から馬 1 頭を連れて被災地域内に移住した若者もあり、胆振地方の労働人口の増加につながった。</p>	

苦小牧からワーキングホースを
連れて、安平町「北進の森」にて作業

視察を行った日は

この馬の馬搬デビューの日

うまくいくか心配そうに見守る・・・



狭い木々の間を抜けて
大木1本を力強く運んでいく



重機が入れる林道まで運び出した木材

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	・NPO法人 ・一般社団法人 任意団体 (※いずれかを○で囲んでください) 追分イーグルス		
団体 URL	なし	電話	090-6998-9869
住 所	北海道勇払郡安平町追分旭292-2		
助成額	375,000円	助成時期	令和1年6月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	室内野球練習場（ハウス）設営 ※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。		
助成を受けて（活動内容について 100～200 字程度でお書きください）	令和1年11月 土地整備・ハウス部材購入 令和1年11月～12月 ハウス設営 令和2年1月 備品搬入・電気工事等 令和2年2月 ハウス完成・練習開始		
写真の説明文	指導者・保護者によるハウス設営作業の様子（令和1年11月）		

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	375,000	
2 その他の助成金	90,000	米山友愛RC・風越カップ北海道応援基金
3 団体支出	723,000	クラウドファンディング・その他寄付金等
収 入 合 計	1,188,000	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
1 ハウス本体一式	1,068,829	ハウス本体一式内訳
2 部材運送料	40,000	(間口8m奥行30mパイプピッチ0.5m)
3 値引き	-28,829	・アーチ：31.8mmパイプ (地際防錆塗装付き)
4 消費税	108,000	7通り直管パイプ 6通り被覆止材 筋交4本 ・妻面：ドア10W×18H 両開き1面・片開き1面 全面POフィルム 透明長期張 り用 厚み0.15 基礎アンカー杭 1.5m間隔 側面手動換気装置付
支 出 合 計	1,188,000	

※ 領収書の添付は必要ありません。

追分イーグルス			
所在地	北海道勇払郡安平町追分旭 292-2		
団体種別	任意団体	助成額	375,000 円（申請 50 万円）
視察日	2019 年 7 月	視察場所	
取材対応	恩田さま		

ヒアリング事項等	
企画の経緯	
<p>北海道胆振東部地震災害によるグラウンドや体育館・スポーツセンター等の損害を受け、当団体を含めた町全体のスポーツ少年団や部活動が練習場所の確保に困難を極めているなか、その打開策としてビニールハウス型の室内練習場の設営を目指している。追分イーグルス以外の団体にも活用してもらえればよいと考えている。追分イーグルスは、全校生徒 120 名という小さい小学校において、20 人程度の生徒が週 5 回練習している。OBOG もチーム運営に関わっており、地域とのつながりが感じられる野球少年団である。</p>	
事業の進捗状況	
<p>当初予定していた中古資材譲り受けの話が頓挫してしまったため、およそ 130 万円の資金不足に陥った。残りの資金をクラウドファンディング(9月開始 10月7日終了)にてまかなうこととした。9月16日、町内にある道の駅のイベントにてブースを借りクラウドファンディングのチラシ(添付)を配布、また、18日に苫小牧民報、19日に北海道新聞とNHKの取材を受けた。当初予定していた支援が受けられないという不測の事態にあいながらも、メディアを活用し資金集めに尽力し、およそ 80 万円のクラウドファンドが成功した。ハウス練習場の建設に目途が立ち、2019 年 12 月現在、建設予定地の整地作業およびハウスの鉄骨パイプ組み立てまで終了した。天候次第では年内にビニールで覆い大枠の作業は完了する予定である。</p>	
所見	
<p>訪問した、追分イーグルスは、予期しないアクシデントに際しても、代替的な資金調達を試み、当初の目的であるハウス建設を達成しつつあった。比較的長い歴史があり、地域の少年少女を支える住民のみなさんの応援もあり、地元根差した運営がなされているように感じられた。当助成事業は計画に基づいて実行されていると認められる。</p>	



追分イーグルス練習風景



コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	<input checked="" type="radio"/> NPO 法人 <input type="radio"/> 一般社団法人 <input type="radio"/> 任意団体 (※いずれかを○で囲んでください) NPO 法人 薔薇香る癒しのまち岩見沢		
団体 URL		電話	0126-23-3993
住 所	北海道岩見沢市志文町 995-32		
助成額	615,500 円	助成時期	2019 年 6 月
用途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	ぼらカフェ運営 毎月 1 回開催 コミュニティカフェ⇒ コーヒー・お茶菓子、食事の提供に伴う費用 ハンドクラフト⇒ フラワーアレンジなどの各種体験講座に伴う費用 ※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。		
助成を受けて (活動内容について 100 ~ 200 字程度でお書きください)	厚真町災害ボランティアセンターにおいて地域住民、ボランティア、スタッフの交流、各団体の受入れ、情報発信・交換を目的にコミュニティカフェ、ハンドクラフト活動を実施しました。今年度は全5回開催、厚真町社協、厚真町災害VCによるチラシの全戸配布、北海道災害復旧復興支援ボランティアによるポスティングの協力により、1000人を超える皆さんの利用がありました。カフェにおいて新しく食事の提供を開始。地域住民、子どもたちの運営サポーターも増加しました。連携イベントも活発になり、道内よさこい団体による演舞、福祉団体によるピアノ演奏会、そば打ちサークルによる体験・試食が実施され賑やかな一日となり、多世代交流が生まれ、あたたかな笑顔の輪が一段と広がった活動に繋がりました。 ※ 2020年2月、3月はコロナウイルス感染拡大防止のため緊急休止		
写真の説明文			

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	615,000	
2 その他の助成金		
3 団体支出	118,825	
4		
収 入 合 計	733,825	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
資材費	211,420	
材料費	195,022	
消耗品	40,732	
事務消耗品	6,151	
人件費	160,000	
交通費	99,600	
保険料	20,900	
支 出 合 計	733,825	

※ 領収書の添付は必要ありません。

薔薇香る癒しのまち岩見沢			
所在地	岩見沢市志文町 995 番地 32		
団体種別	NPO	助成額	615,000 円 (申請 82 万円)
報告日	2019 年 11 月 19 日 (メールにて)	視察場所	—
担当者	岸本さま		

ヒアリング事項等	
企画の経緯	
<p>厚真町災害ボランティアセンターにおいて下記の内容のコミュニティカフェ「ぼらカフェ」を開催している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェ・・・ランチ、ドリンク、スイーツの提供を行う。 ・クラフト講座・・・ハーバリウム、アロマワックス、ジェルキャンドルなどを制作する教室。 	
事業の進捗状況	
<p>2019 年 9 月 21 日、10 月 20 日、11 月 16 日に「ぼらカフェ」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 21 日 来場者 145 名 クラフト講座参加者 21 名 ・ 10 月 21 日 来場者 188 名 クラフト講座参加者 30 名 よさこい演舞も行われた。 ・ 11 月 17 日 来場者 128 名 クラフト講座参加者 28 名 「三陸手打ちそばの会」を同時開催 <p>カフェの運営には厚真町内の住民、子どもたちが毎回 10 名前後ボランティアで支援にあたり、道内各地のボランティアからも協力を得ている。また、他の団体が主催するよさこいやそば打ちなどのイベントを同時開催し、より多くの人を楽しめるよう他の活動との連携も心掛けている。今後は 12 月から 3 月までの期間中月 1 回の頻度で「ぼらカフェ」を開催する予定。</p>	
所見	
<p>予てより当助成団体に対し視察の受け入れをお願いしてきたが、担当者と連絡をなかなかとることができず、残念ながら直接取材を行うことはできなかった。後日メールにて事業の進捗状況等の報告を受けたため、例外的ではあるがその内容にて当助成団体の中間報告とした。</p> <p>推進事業である「ぼらカフェ」を実際に見学することはできなかったが、報告内容から被災地支援の経験を活用し、事業は計画に沿って実行されているように見受けられる。</p>	

「ほらカフェ」の様子

沢山の人が集まり
にぎやかな雰囲気



クラフト講座

流行のハーバリウム
づくりに挑戦する参加者



厚真町内の子どもたちも
ボランティアで運営に参加

ぼらカフェ活動 写真



地域住民サポーター パネル製作 12/7



地域のちびっこサポーター
クレープづくり 12/7



利用者の皆さんでにぎわうぼらカフェ 9/21

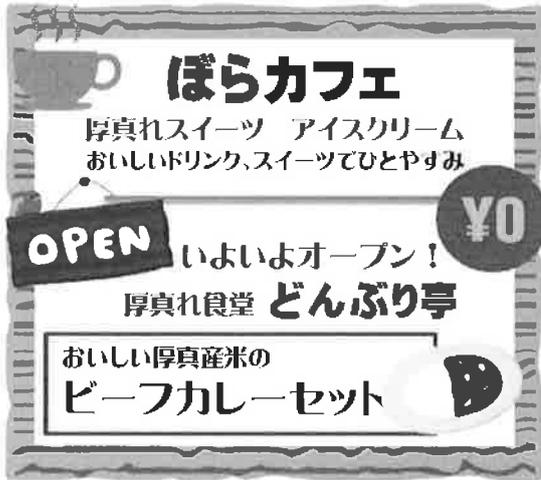


ハンドクラフト講習会 11/16

厚真町災害ボランティアセンター
ぼらカフェ 

2019/9/21(土) 10:00 - 15:00

どなたでもご利用いただけます。お気軽にお立ち寄りください。



ぼらカフェ
 厚真れスイーツ アイスクリーム
 おいしいドリンク、スイーツてひとやすみ

OPEN いよいよオープン!
 厚真れ食堂 **どんぶり亭**

おいしい厚真産米の
ビーフカレーセット

¥0

主催：NPO法人薔薇香る癒しのまち岩見沢 協力：(有)アマゾン

厚真町災害ボランティアセンター 厚真町本郷283-2 090-7647-6583

おしらせ

厚真の皆さん、ご無沙汰しております！
 猛暑が終わり「ぼらカフェ」半年ぶりの復活です。
 新しく「みんな食堂」も加わりパワーアップ！
 厚真町の方もボランティアさんも無料ご利用いただけます。
 月に1回、みんなであたたかいランチ、お茶、たのしいおしゃべりでほっこりするひとときをたのしみにませんか？

復活だ！
全員集合



たまねぎすくい

新玉豊作です。無料

予告 11月開催！玉ねぎすくいお手帳



ハーバリウム体験講座

14:00-14:45 製作時間 15分

※先着15名限定 受付開始 13:30～

※大人気のハーバリウム
 ご自分用、プレゼントにお使いいただけます。初
 めての方でも楽しく取り組むことが出来ます。
 小学校未満は保護者同伴でご参加ください。

どなたでも
参加OK!

厚真町災害ボランティアセンター
ぼらカフェ 

2019/10/20(日) 10:00 - 15:00

お困りごとの相談を承ります。お気軽にお立ち寄りください。



ぼらカフェ
 厚真れスイーツ マドレーヌ
 おいしいドリンク、スイーツてひとやすみ

大好評！厚真れ食堂
どんぶり亭

厚真産米使用
まんぷく 牛丼

¥0

主催：NPO法人薔薇香る癒しのまち岩見沢 協力：(有)アマゾン

厚真町災害ボランティアセンター 厚真町本郷283-2 090-7647-

おしらせ

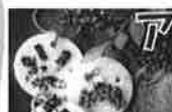
厚真の皆さん、こんにちは！
 いつもたくさんお集まりいただきありがとうございます。
 厚真町の方もボランティアさんも無料ご利用いただけます。
 月に1回、みんなであたたかいランチ、お茶、おしゃべりで
 ほっこりするひとときをたのしみにませんか？
 10月も元気いっぱい皆さんをお待ちしています！



ぼらカフェサポーター募集中です！

ちびっこから大人までお手伝いいただける方を
 募集中。短時間でもOK！ご希望の方はボラ
 ンティアセンターまでお知らせください！

大人気！タピオカ
黒蜜ミルクティー



アロマワックス体験講座

14:00-14:45 製作時間 15分

※先着15名限定 受付開始 13:30～

話題のアロマワックス
 ご自分用、プレゼントにお使いいただけます。初
 めての方でも楽しく取り組むことが出来ます。
 小学校未満は保護者同伴でご参加ください。

どなたでも
参加OK!



厚真町災害ボランティアセンター

ぼらカフェ

2019/11/16(土) 10:00 - 15:00

お困りごとの相談を承ります。お気軽にお立ち寄りください。

☕ **ぼらカフェ 厚真れスイーツ**
 おいしいドリンク、スイーツでひとやすみ
チョコ&抹茶ムース

大好評！厚真れ食堂
どんぶり亭

今日は初バスタ！
 お肉いっぱい **ポロネーゼ**

¥0

主催：NPO法人薔薇香る癒しのまち岩見沢 協力：(有)アマゾン 厚真町災害ボランティアセンター 厚真町本郷283-2 0145-29-7407

*** おしらせ ***

厚真の皆さん、こんにちは
 10月もたくさんお集まりいただきありがとうございます。
 厚真町の方もボランティアさんも無料でご利用いただけます。
 月に1回、みんなであたたかいランチ、お茶、おしゃべりで
 ほっこりするひとときをたのしみませんか？
 11月も元気いっぱい皆さんをお待ちしています！

注目!

玉ねぎすくい選手権!!

誰がたくさんすくえるかな？
 受付10:30 開始11:00～



ぼらカフェサポーター募集中です!

ちびっこから大人までお手伝いいただける方を募集中。短時間でもOK! ご希望の方はボランティアセンターまでお知らせください

Xmasジェルキャンドル体験講座

14:00-14:45 製作時間 15分

※先着20名限定 受付開始 13:30～



ご自分用、プレゼントにお使いいただけます。初めての方でも楽しく取り組むことが出来ます。小学校未満は保護者同伴でご参加ください。

参加OK!

無料!

厚真町災害ボランティアセンター

ぼらカフェ

2019/12/7(土) 10:00 - 15:00

お困りごとの相談を承ります。お気軽にお立ち寄りください。

☕ **ぼらカフェ 厚真れスイーツ**
 おいしいドリンク、スイーツでひとやすみ
Xmasスイーツ

大好評！厚真れ食堂
どんぶり亭

今日はほっかぼかメニュー!
かぼちゃシチュー

¥0

主催：NPO法人薔薇香る癒しのまち岩見沢 協力：(有)アマゾン 厚真町災害ボランティアセンター 厚真町本郷283-2 0145-29-7407

*** おしらせ ***

厚真の皆さんこんにちは！いつもありがとうございます。
 12月は「ぼらカフェクリスマス&ミニ忘年会」
 みんなであたたかいランチ、お茶、おしゃべりで
 ほっこりするひとときをたのしみませんか？
 12月も元気いっぱい皆さんをお待ちしています



ぼらカフェサポーター募集中です!

ちびっこから大人までお手伝いいただける方を募集中。短時間でもOK! ご希望の方はボランティアセンターまでお知らせください

ワックスホール体験講座

13:30-14:30 製作時間 20分

※先着20名限定 受付開始 13:00～



エプロン・手袋をご用意ください。初めての方でも楽しく取り組むことが出来ます。小学校未満は保護者同伴でご参加ください。

どなたでも参加OK!

無料!

厚真町災害ボランティアセンター

ぼらカフェ



厚真町の皆さん！あけましておめでとうございます。
新しい年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう
心よりお祈り申し上げます！。本年も宜しくお願いたします！
令和2年もみんなであたかいらんち、お茶、おしゃべりで
ほっこりするひとときをたのしみませんか？
新年も元気いっぱい皆さんをお待ちしています

2020/1/18(土)10:00-15:00

お困りごとの相談を承ります。お気軽にお立ち寄りください。

ぼらカフェ 厚真れスイーツ
おいしいドリンク、スイーツでひとやすみ
米粉のもちもち**ロールケーキ**

大好評！厚真れ食堂
どんぶり亭
新春 第一弾メニュー！
ロコモコ丼

¥0

厚真町内のたくさんのサポーターさん
大活躍中です！



ちびっこから大人までお手伝いいただける方を募集中。
短時間、飛び入りでもOK！ご希望の方はボランティアセンター
までお知らせください。お待ちしております☆多
☞ちびっこボランティアさんはエプロンをもってきてね



アロマでつくる**練香水**体験講座

13:30-14:15 製作時間 20分

※先着20名限定 受付開始 13:00～
気分をリフレッシュしてくれるお気に入りの香りを見つけ
自分だけの香水を作りましょう。
初めての方でも楽しく取り組むことが出来ます。
小学校未満は保護者同伴でご参加ください。

どなたでも
参加
OK!

無料!

ワックスホール講座を受講された皆さん
10:30-12:00 絵付けをします！

主催：NPO法人 薔薇香る癒しのまち岩見沢 協力：(有)アマゾン 厚真町災害ボランティアセンター 厚真町本郷283-2 0145-29-7407

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	<input checked="" type="radio"/> NPO法人 ・ 一般社団法人 ・ 任意団体 （※いずれかを○で囲んでください） アグリコミュニティ千歳		
団体 URL	http://www.acc.or.jp	電話	044-954-2538
住 所	北海道千歳市末広4丁目7番8-1号		
助成額	100,000円	助成時期	2019年 4月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	事業名：大地震の復興に向けての原風景再興と新ビジネス創出の事業 ①物品購入費 スマート農園構想の実証試験機材[果実摘み取りの実証試験：吸引機・情報機器用電池] 事務用印刷機器[資料印刷：打合せ資料・提案資料・等] ②会議費 勉強会・報告会の開催[当法人には経費削減のため会議室がなく、外部施設にて開催] ③交通費 ボランティア活動に伴う交通費[当法人無給役職員、及び住民・学生] ④通信費・印刷費 郵便料[書類・物品の送付] 印刷費[広報活動資料] ※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。		
助成を受けて（活動内容について 100～200 字程度でお書きください）	勇払原野の原風景を想像するハスカップの郷を、住民・学生が主体に営農者や自治体・機関・団体と協働で創る。大地震復興に向けて、ハスカップの植栽とブランド品開発に取組み、地域資源を強化する。また、営農者要望と大学知見の整合で、地域発スマート農園の実用化を図る。地域社会の対話の場として、北海道大学・千歳水族館で講演や安平町役場・厚真町役場で説明をした。地域協働で農業ボランティア活動やまち興し活動に取組む。		
写真の説明文	ハスカップ農園での摘み取り作業手伝い [ハスカップの郷づくりの広報写真を添付] 2019年7月6日撮影		

収支決算報告書

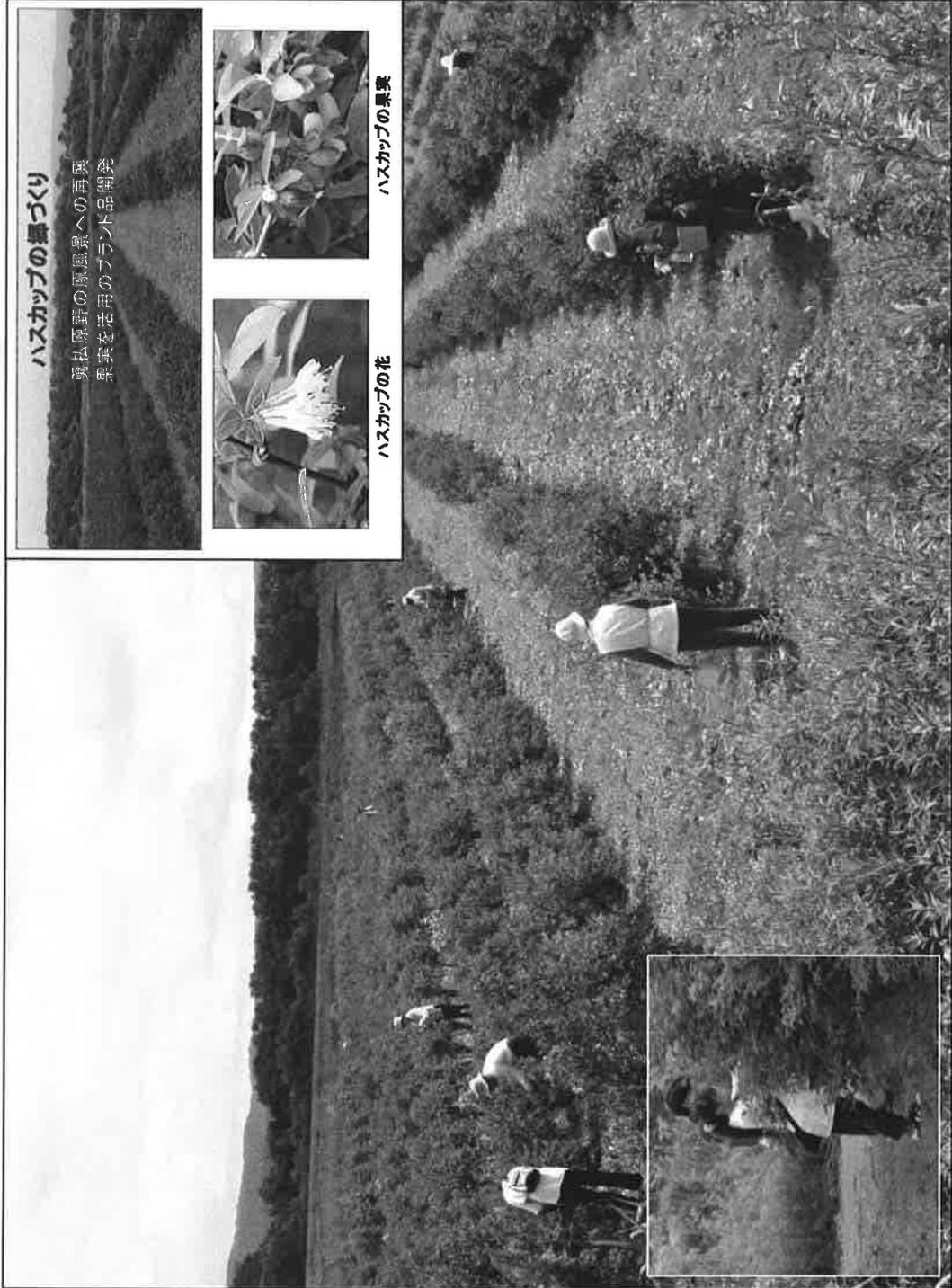
科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	100,000 円	
2 その他の助成金		
3 団体支出	48,170 円	当NPO法人役員の寄付金 48,170 円
4		
収 入 合 計	148,170 円	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
1 物品購入費	52,390 円	スマート農園構想の実証試験機材 37,020 円 内訳：吸引機 35,400 円 情報機器用電池 1,620 円 事務用印刷機器 15,370 円
2 会議費	39,180 円	勉強会・報告会の開催 39,180 円 開催目的：被災地課題調査 4,180 円 植栽ノウハウ勉強会 35,000 円 参加者：住民・学生・営農者・教員
3 交通費	46,970 円	活動交通費[J R・公共交通機関] 46,970 円 対象活動：ボランティア活動 対象者：当法人無給役職員、及び住民・学生
4 通信費・印刷費	9,630 円	郵便料[書類・物品の送付] 530 円 印刷費[広報活動資料] 9,100 円
支 出 合 計	148,170 円	

※ 領収書の添付は必要ありません。

アグリコミュニティ千歳			
所在地	千歳市末広4丁目7番8-1号		
団体種別	NPO	助成額	10万円
取材日	11月6日	視察場所	北海道NPOサポートセンター
取材対応	藤田さま		

ヒアリング事項等	
企画の経緯	
<p>北海道胆振東部地震でハスカップ農家も甚大な被害を受けた。ハスカップの栽培は草取りや収穫に大変な手間がかかるため、震災を機に廃業しようと考えている農家もある。当団体はスマート農業の導入で、人手が不足している農家への事業の継続支援、ハスカップ栽培の援農活動を行っている。スマート農業分野では産業技術総合研究所にて雑草駆除自律移動ロボットを開発中である。高齢化のすすむ農家にとって腰に負荷がかかる草取り作業は負担が大きい。この作業を人に代わってロボットが担えば、高齢の農家の負担を軽減するだけでなく、魅力ある次世代型の農業として若者の就農も期待できる。雑草駆除自律移動ロボットは家庭用の掃除機ロボットの原理を応用し、現在大学、果樹園とも連携し実用化を目指している。</p> <p>また、ハスカップを活用したブランド品の開発を計画しており、ハスカップの人気を高め消費量を増やし、ハスカップ栽培という面から被災地域をふくめた北海道の産業の発展を後押ししたいと考えている。</p>	
事業の進捗状況	
<p>千歳市役所・安平町役場・厚真町役場でハスカップ農園の再興と、スマート農業の導入を提案した。被害の大きかった安平町や厚真町では、震災からの復旧が優先課題であるため、農家の経済的・精神的な余裕が生まれていない状況にあり協働にはまだ至っていない。</p> <p>また、スマート農業について、サケのふるさと千歳水族館および北海道大学総合博物館において講演会を実施した。 ※ 詳細は助成団体が作成した中間報告書を別紙参照</p>	
所見	
<p>プロジェクトそのものが非常に大きな計画であるため、現時点で被災地域における具体的な効果を述べることは難しいが、計画に沿って着実に実行されており、長期的な視点で地域活性化への貢献が期待できる。</p> <p>また、地元の大学と密に連携することで、スマート農業に関心をもつ学生の研究や、北海道内での就職やボランティア活動などに新たな可能性を与えられる。農業王国である北海道の強みと魅力を引き出し、ハスカップのみならず、農業の力で復興や地域課題解決を目指している。</p>	



ハスカップの採り

湧払原野の原風景への再現
果実を産用のブランド品開発



ハスカップの花



ハスカップの果実



入場無料
予約不要

2019年8月3日(土)

BIO Mimetics

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第92回 持続可能な社会とバイオミメティクスを考える
その5 環境、農業、経済



農業：農村は、食料供給に加え国土や自然環境の保全、良好な景観形成の役割を持つが、就農人口の減少により持続性確保が懸念されます。勇払原野は、縄文時代前期からひとが生活を営み、不老長寿秘薬のハスカップが自生。栽培は千歳で始まるが迫る危機。薬効・美容・健康の効用があり、苺・レモン・ブルーベリーより高栄養価でも低い活用度。ハスカップの植栽による原風景再興と、果実を活用したブランド品開発の取組みを紹介します。次に、情報通信技術・ロボット技術を活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業がスマート農業です。超省力化の農業、データ駆使の戦略的な生産、取組みやすい農業、生産と販売の連携などの実現が目的。スマート農業の市場と技術の動向、さらに千歳発スマート農園モデルをハスカップ農園への先行導入の紹介をします。重労働と勤&経験の農業の興隆を上げ、農業の魅力アップに繋がりたいと考えます。



勇払原野の原風景再興と 新ビジネスの創出をめざして

NPO法人アグリコミュニティ千歳 理事長

藤田 和徳

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学総合博物館
5F 50110 札幌市北区北10条西8丁目
TEL:011-709-2654 FAX:011-709-4269
E-mail: ylab@graffiti.museum.hokudai.ac.jp

律動する世界

成安造形大学 客員教授
滋賀県立大学 名誉教授

仁達 孝昭



エコシステムは初期の成長段階から成熟段階に移り安定した極相(クライマックス)に至ることが教科書に書かれています。だが長い目でみると、洪水・山火・害虫の蔓延などが必ず起こり安定したエコシステムも攪乱されそれに耐えきれなくなると新たなレジームに転換します。エコシステムと同じく多様な人々のネットワークで組織されている人間社会も生態系と同じように成長段階、成熟段階攪乱による下降段階、そして新たなレジームの創発段階へという律動の大きなうねりから逃れられません。人間コミュニティは一直線に、進歩するのではなく、生物コミュニティと同じように律動するのです。そうであれば、私たちは今律動のどの段階にあるのかを認識し、その段階に応じた対応をしなければならぬこととなります。持続可能な社会を考えると、律動のどの段階に立っているのかを認識することが重要です。これができて初めて、生物コミュニティに蓄えられた知恵を私たちは有効に利用できます。律動する世界について一緒に考えましょう。



会場：北海道大学総合博物館 3階 北講義室(N308)
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただくことがありますのでご了承ください。

団体名	・ NPO 法人 ・ 一般社団法人 ・ 任意団体 (※いずれかを○で囲んでください) 支え合い共に生きる会 会長 小金澤 淑子		
団体 URL		電話	0145-42-3387
住 所	北海道勇払郡むかわ町美幸 1 丁目 85		
助成額	100,000 円	助成時期	2019 年 5 月
使途内容	<p>現在、だれでも自由に立ち寄れる場として「みんなの茶店」を週に 3 回(月水金)と月一回日曜日にも開催しています。</p> <p>昨年の地震によりテーブル、椅子など破損した修理、新しく購入し、ゆっくりとくつろげる空間をと検討し、申請に至っています。</p> <p>※ 収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。</p> <p>※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。</p>		
助成を受けて (活動内容について 100 ~ 200 字程度でお書きください)	<p>今回の助成金で茶店の雰囲気はどうしたらよいか、利用される方がゆっくりできる空間をとということで今までの食卓テーブルからコーナーのソファを設置することで意見がまとまりました。茶店自体の床が段差があるなど条件が厳しい中ソファを選ぶのに時間を要しましたが、設置し利用される方の評判はゆっくり会話ができて、落ち着いたという話が聞かれ購入してよかったと感じています。</p> <p>コーナーのソファを設置することで色々な講座等を開催できやすく、みんなで輪のような状況で開催できています。</p> <p>震災後、独居の方、家族と同居の方もなじみのスタッフ、利用者の方と馴染みの関係を築けており、日常生活の一部になっているとの話も聞かれ、今後は高齢者、障害者、子育て世代など色々な方が集える場所が提供できたらと考えています。</p>		
写真の説明文	コーナーソファーにして初めて来たお客様 (同級生の方々)		



今回、地震による助成金をありがとうございます。

皆様の善意を無駄にせず、検討し同封したソファを購入しました。

スタッフ、利用者の方々が雰囲気がよくなり、ゆっくり会話ができると評判です。

本当にありがとうございました。

報告書が遅くなり申し訳ありませんでした。

不明な点がございましたら連絡いただければと思いますので、よろしくをお願いします。

令和元年8月23日

支え合い共に生きる会 小金澤 淑子

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	100,000	
2 その他の助成金		
3 団体支出	18,104	
4		
収 入 合 計	118,104	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
	36,945	ソファー
	27,686	ソファー
	32,315	テーブル
	8,562	テーブルマット
	2,848	ケアキット
	1,000	配送料
	8,748	消費税
支 出 合 計	118,104	

※ 領収書の添付は必要ありません。

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書

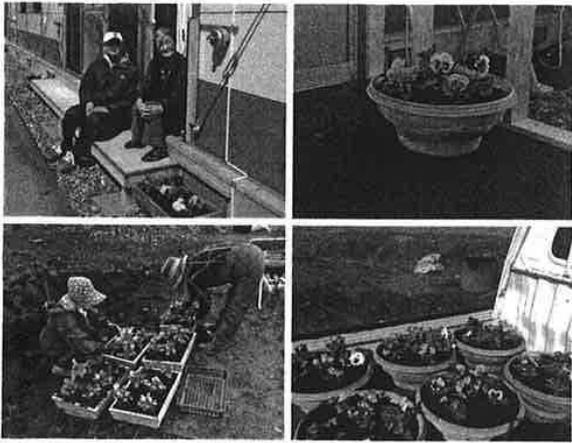


☆下記の各項目にご記入をお願いします。

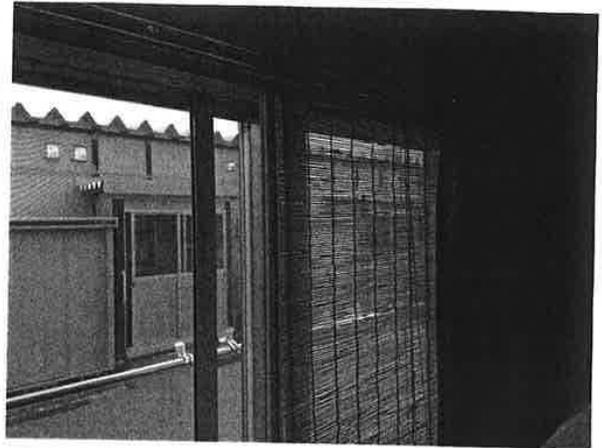
☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただきますのでご了承ください。

団体名	・任意団体 オレンジたすきで繋ぐ「ippo」		
団体 URL	https://www.ippo-orange.com	電話	0145-27-2062
住所	〒059-1603 北海道勇払郡厚真町本町 51-1		
助成額	10万円	助成時期	2019年 6月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	事業名：仮設住宅に花を 事業内容： ・4/10より鉢植えの花を希望者の玄関、ベランダに置かせて頂いています。 ・7月より暑さ対策で、すだれの設置 ・風除室への網戸設置により、風通しを良く環境改善 ・秋まで持つようにと、花の植え替え。 ・9月3日、福祉仮設住宅へのプランターの設置 仮設住宅の談話室への鉢植えの設置。 会報等はありません。		
助成を受けて（活動内容について 100～200 字程度でお書きください）	町内の花フレンズさんの協力により、プランター、鉢、土の無料提供、梅原商店さんの値引きにより、花の植え替えや談話室への設置、福祉仮設住宅への花、プランターの設置が出来ました。一から全て購入し全面設置だと、絶対に今回の助成金では無理でした。必要なお宅に設置しましたので、花も元気で皆さんに喜ばれています。		
写真の説明文	1 花フレンズさんの自宅での作業・設置。2 すだれの設置 3 網戸設置 4 植え替え 5 談話室への設置。6 福祉仮設住宅での作業 7 福祉仮設住宅設置		



<写真1>



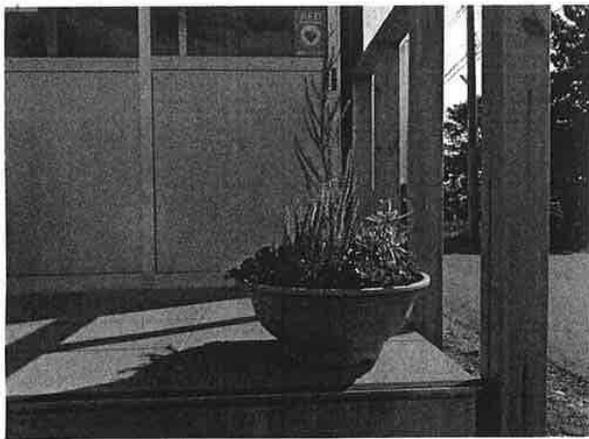
<写真2>



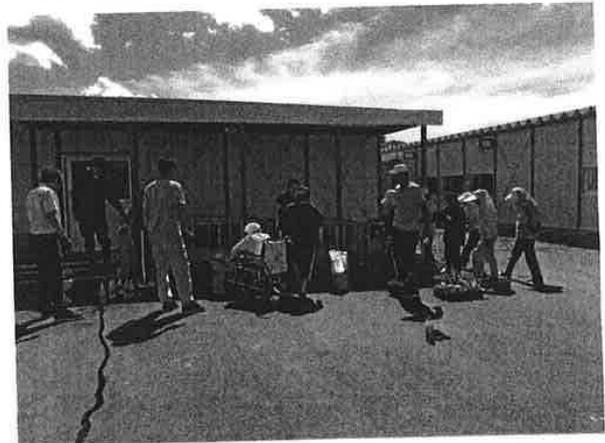
<写真3>



<写真4>



<写真5>



<写真6>



<写真7>

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	100000円	
収 入 合 計	100000円	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
春の花の苗代	26970円	パンジー他 340苗
軽トラックガソリン代	3339円	知人貸貸、満タン返却にて。
仮設住宅へのすだれ設置	4206円	取付の確認しましたが、要望する戸数が 少なかったです。
すだれ・部材費用		
風除室への網戸設置	2856円	暑さ対策で、すだれを設置中に、風通しを良く する為、風除室への網戸設置を並行。
部材費用		
花の苗の植え替え	26000円	294苗分 秋まで持つような苗と植え替え
福祉仮設住宅・談話室	34000円	花の苗、プランター8個分
プランター・鉢植えの設置	420円	途中枯れた苗の植え替え分含む
花の植え替え	1000円	1000円は花フレンズヘジューズ代
	1209円	残り1209円は私の車両燃料費として。
支 出 合 計	100000円	

※ 領収書の添付は必要ありません。

①発災直後の穂別図書館



④再開のお報せ看板



②書籍除菌機の搬入と説明



⑤穂別図書館からのお礼状とご案内



③イスのやすりがけ再塗装



北海道胆振東部地震の被害を受けて休館していた、むかわ町穂別図書館の再開支援に行ってきました！

当日は6名で館内設備の整備や装飾、雑誌の無料配布コーナー設置のお手伝いなどに取り組みました。左上の写真は、館内で使っているイスにヤスリをかけている様子です。椅子の座面に接着剤が付着し、べたべたになっていました。ヤスリで削ったあと、ワックスを塗り使用できる状態にしました。

左下の写真は、絵本カバーで作った紙バッグ20個を寄贈した時の様子です。穂別図書館司書の佐々木さんは「来館した子どもたちに配布したい！」と喜んでいました。

穂別図書館は4月3日に再開し、当日は朝から50名の来館があったそうです。本会では再開後に、集まった寄付金で新刊本約10冊を購入し寄贈しました。今後も困りごとがあれば積極的に対応していく予定です。

コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

助成金活用結果報告書



☆下記の各項目にご記入をお願いします。

☆あわせて、助成金による活動の様子がわかる写真一枚をデータでお送りください。

☆ご記入内容と写真は、北海道 NPO ファンドおよび北海道生協連の Web サイトやリーフレットに掲載させていただきますのでご了承ください。

団体名	・一般社団法人 一般社団法人北海道ブックシェアリング		
団体 URL	https://booksharing.wixsite.com/bookshare	電話	011-378-4195
住 所	〒069-0852 江別市大麻東町 13-52		
助成額	7万円	助成時期	2019 年 5 月
使途内容 ※収支については別紙「収支決算報告書」にてご報告下さい。	事業名：むかわ町穂別図書館再開支援事業 事業内容：北海道胆振東部地震で深刻な被害を受けたむかわ町穂別図書館の通常開館に向けた支援および開館後のサポートを実施していく。ボランティアスタッフが備品の再生・整備、書架への配本、装飾などを実施するほか、必要とされる書籍の提供を実施していく ※ 総会の資料、会報、チラシ等がありましたら添付してご提出ください。 会報を添付しています		
助成を受けて（活動内容について 100 ～ 200 字程度でお書きください）	ヒアリングを重ね、担当者から要望を聞き取ったうえで以下の支援を実施した①汚損した図書やカビ菌の恐れのある図書の保全のため書籍除菌機の貸与を実施②東京の支援団体との接続により館の希望図書を提供③ボランティア6名により開館に向けた館内装飾や什器等の整備を実施		
写真の説明文	①発災直後の穂別図書館 ②書籍除菌機の搬入と説明 ③イスのやすりがけと再塗装 ④再開のお報せ看板 ⑤穂別図書館からのお礼状とご案内		

収支決算報告書

科 目	金 額	備 考
収入の部		
1 北海道NPOファンド 助成金	70,000 円	
2 その他の助成金		
3 団体支出	80,000 円	
4		
収 入 合 計	150,000 円	

科 目	金 額	備 考
支出の部		
ガソリン代	12,000 円	2000 円×6回
高速料金	27,600 円	2300 円×6往復
塗装用具（ペンキ等）	42,000 円	ペンキ、ローラー、ヤスリ、ハケ、うすめ液、軍手 ブルーシート
装飾道具	12,000 円	模造紙、折り紙、のり、ハサミ、カッター、カッタ ーマット、ホチキス、シール、ダンボール
工具(サンダー)	12,500 円	
昼食	3,900 円	6人×650円
車両借り上げ	10,000 円	ボランティアの送迎車両を借り上げ
除菌機消耗品類	30,000 円	紫外線灯・フィルター・脱臭剤
支 出 合 計	150,000 円	

